

おいしい水の命は元気な森

聖園女学院中学校

一年 細谷 理夏

私は、これまで気づかないうちに、たくさんの水の恵みを受けて、生活してきたと思います。水道の蛇口をひねれば、飲むことができる水が出てくるし、小学校の校外学習で行った宮ヶ瀬ダムや、家族旅行で行った黒部ダムでは、観光放水を見ることができ、そのスケールの大きさに圧倒されたのは、良い思い出となっています。

しかし、この水の恵みは簡単にもたらされるものではありません。例えば、私の祖母は岩手県盛岡市の隣にある滝沢市に住んでいます。滝沢市は自然が豊かな場所なので、水も豊富にあるのだらうと思っています。ところが、祖母に話を聞いたところ、市内には、北上川という大きな川が流れています。この川は、岩手県中央部を北から南に流れ、隣の宮城県東部の石巻市という所に流

れています。流域面積は東北地方の河川の中では最大で、日本全国では四番目の規模です。そして、昔からきれいな水が流れ、豊富な水量が人々の生活をうるおしてきました。大正時代に入ると支川赤川の上流に松尾鉾山という鉾山ができましたが、これが汚染の原因のもととなっていくのです。この鉾山から、流水する鉾毒水で赤川は酸性水に汚染され、その量が多くなるにつれ、北上川にも汚染が広がりました。昭和二十年後半からは魚が生息できないほどになり、北上川はやがて、「死の川」となってしまうのです。この川からは人々は遠ざかってきました。その後、県や国が水質を改善するために、様々な事業を行い、北上川の水質は徐々に改善されていきました。昭和四十九年の秋には、魚が姿を見せ、鮭のそ上が確認されました。水質は改善されていきましたが、いまだに、飲水には適しておらず、昔のように、人の口へとは運ばれてはいません。それでも農業用水には、使用できることが確認され、農業用水に利用しているそうです。そのため、水道水は、岩手山の伏流水を、貯水して、引水し、まかっています。このことから私は、飲み水は限られた自然の資源によって、もたらされるものなの

だと思いました。

この限られた水の資源である豊かな水を維持し、大切にずっと使っていくには、水源である森を守り育てることが大変重要なのです。

森を育てるためには、間伐（混み合った木の本数を減らすこと）や、枝打ち（木の余分な枝を落とすこと）を行い、森の中に日光を、十分に入れて、下草が生えるようにする必要があります。このように手入れがきちんとしていない森だと、木々が混み合い、日光が入らず、下草も生えていないため、降った雨水が貯まることなく、すぐに流れ出てしまうからです。また、森の手入れを進めるために、間伐した木は市場に運び出して売られるなどと、環境のためにもリサイクルをする必要があると思います。

水道水は無限にあって、簡単に作られるものではなく、水源である森の恵みと人々の働き、貯水、浄水などの技術によって、もたらされるものではないかと、私は思います。そして、私は水源である森にも、足を運び、水道水などの水について、もっと理解を深めていきたいと思っています。この機会に調べたり、聞いたりしたことは、周

困の人たちとも共有して、皆で水に対する意識を高められたら良いと考えています。そして私が書いた以外にも、汚染され水が飲めない所は、日本だけでなく他の国（外国）にもあります。まずは、今、私たちが出来る最前線のこと（ボランティア活動など）をして、一日でも早く世界中の人たちが、安全で安心して飲める水になるように日々、生活していきたいです。